

造林 30 年の体験を活着率向上運動に活かす

中津川営林署 上 田 尉 夫

今年度全局をあげて展開された「活着率向上運動」について、私達が取り組んだ内容についてのべる。

始めこの話を主任が持ってきたときには、「今更何でこんなことを……」と思ったが、考えてみれば当部内では、最近しばらく伐採もなく、昨年度何年振りかで本格的な植付を行った次第。「初心に帰る」「原点から見直す」とよく言われるが、昨年の実行結果を謙虚に反省する中から、より良い成績を残そうではないかという事になった。

幸いというか私達の班には、どこにも負けないと自負するチームワークの良さと、すべてみんなで話し合い、みんなで実行するという全員参加の積極性がある。この我が班の特色が、今度の活着率向上運動にも如何なく発揮された。

私達の班の伝統も一朝一夕にしてなったものでなく、終戦直後の山泊り時代から長い時間をかけて作り上げられたものである。当時は春になると、作業道具、食糧、寝具一式を背負い1日がかかりで入山し、何時帰れるとも解らぬ山小屋のランプ生活を続けたものであった。今の様に食べるもの、着るものも豊富にある時代と違い、無い無いづくしの生活の中から、みんなが自分の家で取れた野菜や、作った味噌たまりを持ち寄り、足りないものを補い合うといった生活の中で、お互いの助け合い、連帯感が育っていったものと思っている。更にもう一つ良き指導者に恵まれたこと、その指導員から、忠実と秩序、信頼と尊敬を徹底的に教えられた。こうしたことが基礎となって、今のような「班の和」と、全員参加の積極性が養われてきた。

活着率向上に向けてみんなで話し合ったこと、決めたことを要約すると、表-1 のようになる。まずポイントを「苗木の輸送」「受入後の保管管理」「植付方法」の3点に分け、それぞれに対策を立てたが、この中で最も重要なポイントとしてあげたのは、「苗木を弱らせない」ということ。そのために土仮植を全廃する。そして受入苗木は払出し先と連絡をとり梱包材料はそのまま保管のできるポリ袋、ライフバックを使う。でもこれらの梱包材料もいつまでも保管可能というわけにはいかないので、保管の期間をできるだけ短かくするようにし、目標を1週間から10日までに植え終えることができるよう、1回の受入量は8,000本までとして、表-2 のような輸送計画を、植付の時期、進行見込みを勘案して立てた。又、根を乾かささないための工夫として、山出しの際に古菫を使ってそれを水に浸した後余分の水を振り除き、それで根を巻いて再びライフバックを包んで植付場所まで運び、そのまま林縁の日蔭の林内に置く。幸い最近では分散小伐区の実行で、容易に適当な場所が確保できる。受け入れた苗木の保管は、まず梱包状態を全部検査して、密封の有無を確認する。そうして、図-1 のように林内の通風の良い林道に近い場所を選び、直射日光が当たらないようシート、幕舎等を覆いをして、ポリ袋は木枠を組んだ中

に立てて並べる。ライフパックは地表に1列に寝かせて保管し、積み重ねによるムレを防止するよう配慮する。

以上の話し合いをもとに、3月17日より植付を開始、5月9日約2か月に及ぶ植付を終了した。この実行結果が当初の話し合い通り実行できたかを表を追ってみると、まず苗木の輸送計画と実行については、表-2の通りで、回数は計画より1回多く、受入本数も最高で7,000本、平均5,500本となった。これを植付に要した日数で見ると、表-3のように最も保管期間の長いもので9日、短いものは3日、平均7.4日ということで、ほぼ完全に計画通り実行することができた。が、活着率の向上はできたか、となると夏の調査を待たなければならないが、8月に入って調査した結果、活着率98%、補植0という好結果をあげることができた。

このようにして、3月に始まった活着率向上運動に向けて、私達がやってきた結果を表-4のようにまとめてみた。まず成果としては、苗木の受入れが希望通りになった。このために苗木の保管期間の短縮ができ、苗木を弱らせずに植付ができた。更にみんなで話し合って決めたこと、苗木の保管管理、植付の留意事項等が確実に守られた、等があげられる。又反省としては、始めて使ったせいかライフパックの荷くずれが一部みられたこと、ポリ袋で苗木の頭が一諸にゴムでしめられていたものもあった。それと民苗で根の乾きぎみのものが見られた等、一寸した注意で防げる苗木取り扱いのまずさが目についた。民苗については、生産者が何人にもなることがあるので、掘取から梱包までの立会検収の強化が必要かと思う。更に需給調整の関係からか、終りの方に2年生の小苗が混じっていたが、なるべく健全な大きな苗(40cm上)を確保してほしい。といった声が聞かれた。が、今回の活着率向上運動を通じて、何にも増して強く思ったことは、署と現場が一体となって取り組み、署が現場の要望を満たしてくれた。そして現場もそれに応えたこと、それに私達の班のチームワークの良さと全員参加の積極性がプラスされて、こうした好成績が生まれたと思う。

今後共、この経験を植付だけでなく、造林事業の、いや国有林事業の総てに生かし、我班の良き伝統を守りながら頑張りたいと思う。

表-1 活着率向上に向けて話し合ったこと

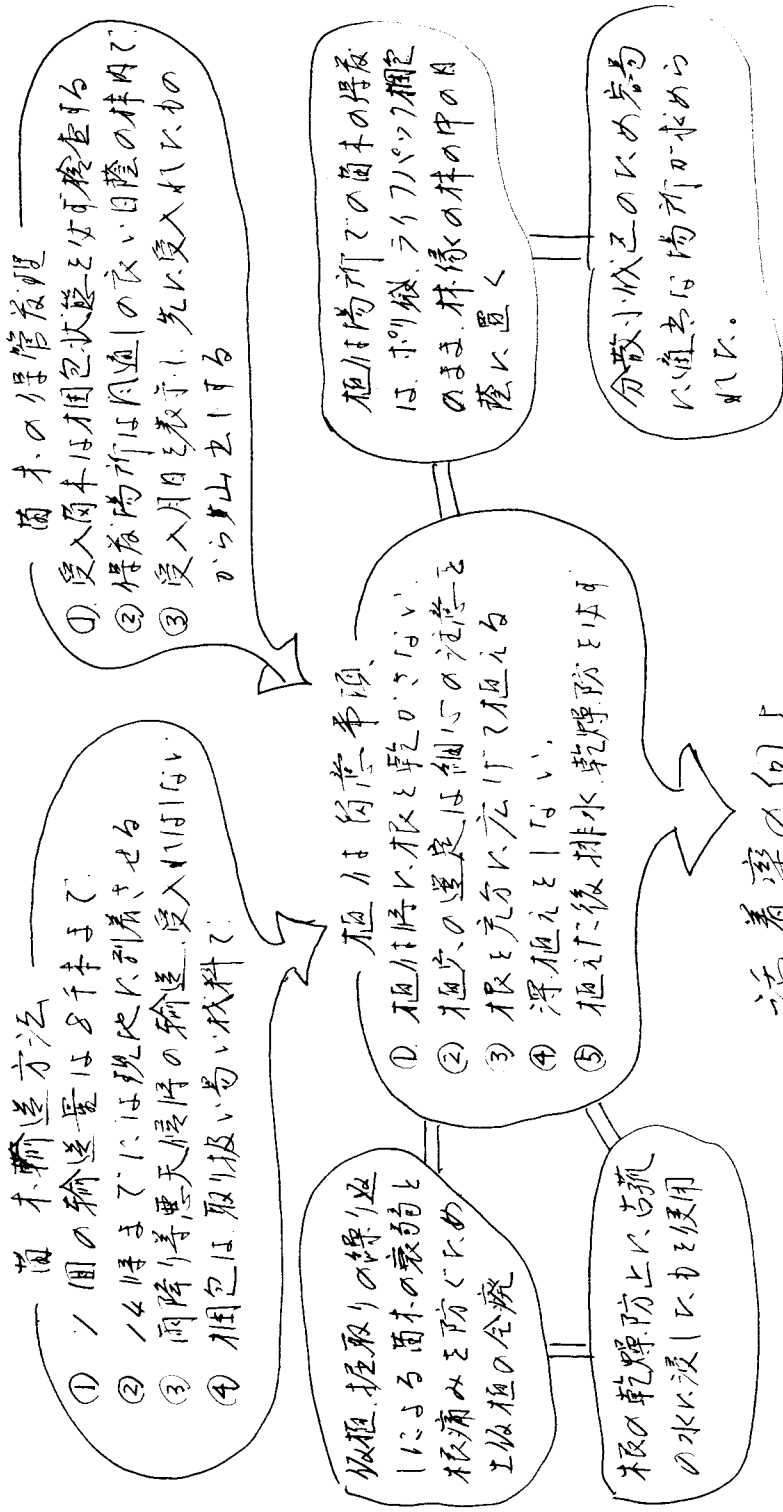


表-2

苗木輸送の計画と実行

受入 月日	計画	3月17日	24	28	29	4月7日	12	19	26		計
	実行	3月17日	24	28	30	4月5日	13	20	25	5月2	(平均)
輸送 方法	計画	トヨペット	トヨペット	トヨペット	トラック 民 車	トヨペット	トラック 民 車	トラック 民 車	トヨペット		
	実行	〃	〃	〃	トラック 官 車	〃	〃	トヨペット	トラック 民 車	トヨペット	
荷姿	計画	ポリ袋	ポリ袋	ポリ袋	ライフ パック	ポリ袋	ライフ パック	ラ イ フ パ ッ ク	ポリ袋		
	実行	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ポリ袋	ラ イ フ パ ッ ク	ポリ袋	
払出 苗畑	計画	緑ヶ丘	緑ヶ丘	緑ヶ丘	野 村 種 苗	緑ヶ丘	姫 路 太 和 田	姫 路 太 和 田	緑ヶ丘		
	実行	〃	〃	〃	〃	〃	〃	緑ヶ丘	姫 路 太 和 田	緑ヶ丘	
数量	計画	6.0千本	6.0	3.9	7.0	8.0	6.0	8.0	5.4		5.03 (6.3)
	実行	6.0 〃	6.0	3.9	7.0	4.0	6.0	7.0	5.0	5.4	5.03 (5.5)

表-3

受入苗木の植付所要日数

受入月日	3月 17日	24	28	30	4月 5	13	20	25	5月 2	計
受入本数	千本 6.0	6.0	3.9	7.0	4.0	6.0	7.0	5.0	5.4	5.03
植付開始	3月 17日	24	28	4月 1	6	13	21	27	5月 4	
植付終了	3月 24日	28	31	4月 6	13	21	27	5月 4	9	
保管日数	7日	4	3	7	8	8	7	9	7	平均 7.4日
活着率	% 97	97	97	99	98	100	98	97	97	〃 98

参考 S 52年度、受入回数1回、本数10.0千本、保管期間15日、活着率90%

表-4 成果と反省

成 果

- ① 苗木の受入に希望通りだった。
- ② 苗木保管期間が短縮できた。
- ③ ぬんぼで決めた。みんなばで守った。

反 省

- ① ライフバック梱包の荷くずれ防止
- ② ポリ袋で苗木の頭と一筋にしめがい
- ③ 採取梱包時の根の乾燥防止
- ④ 健全式箱(40cm上)の確保

男と現場との一体化 + 班の和と全員参加の積極性

||
活着率 98% 達成 (補植 0)

(252年交活着率 90%・補植率 4%)

图-1 苗木保管状况

